



空撮・写真提供 株式会社畑水産 代表取締役 畑 栄次



彦島八幡宮社報
第 64 号



「四KプラスROY」の
敬神生活の日々を過ごしませふ

宮司 柴田 宣夫

令和六年の清々しき新年を寿ぎ、謹んでお慶びを申し上げます。

経営の神様と言われた松下幸之助さんは、「徳のある方」は、三つのものを持つていと仰いました。一つは、何事にも感謝することができる人です。私共の御先祖様は、万理万象に神仏を見出し、何事も謙虚に感謝する心を大切にしてきました。二つめは、掃除ができる人です。 私ども神職の奉仕で一番大切なのが、「神明奉仕」、神様への御奉仕なのですが、二番めが、「清掃奉仕」なのです。神様は、特に、清浄を大切にされます。神様を喜ばす心、これは、清掃奉仕が、肝心要です。まさしく、思いやり、利他の心につながるのです。 思いやりのある人は、まわりの人を幸せにします、さらに、まわりの人を幸せにする人は、まわりの人から、ますます幸せにされるのです。 三つめは、愛嬌のある人です。「和気致祥」と書いて、和気祥を致すと読みますが、どんなに苦しく辛くても笑顔を忘れない、そうすると、必ず、幸せになれるという意味です。 つまり、松下幸之助さんは、人は、「感謝」、「清掃」、「愛嬌」が、備わっていないければならないと論じられたのです。

そのためには、私は、「三つの目」を持つことが必要ではないかと考えます。一つは、大空から全体を見渡すことのできる、「鳥の目」です。二つは、足元や細かいところも目配りできる、「虫の目」です。さらに、三つは、世の中の流れを見極める「魚の目」です。「鳥の目」は、感謝する心です。 落ち着いて、ゆとりを持たなければ、何事にも神仏を見出し、感謝することは、なかなか容易ではありません。「虫の目」は、お陰様という謙虚な気持ちでまわりの人を幸せにする思いやり、利他です。さらに、「魚の目」は、どんなに苦しくても、希望を見失わず、創意工夫をして、乗り越えていく心がけです。 まさに、「三つの目」は、一昨年から、私が提唱している、敬神生活の心がけ、「四K(感謝、謙虚、希望、工夫)プラスROY(利他、落ち着き、ゆとり)」でもあります。「四KプラスROY」の敬神生活で、明るく豊かな暮らしをお過ごしください。

八幡宮からの重要なお知らせ「詳細は次頁参照」

どんど焼きは分別にご協力下さい

どんど焼き 一月二十一日(日)午前10時頃～正午まで

※荒天の場合は、翌週月二十八日(日)に順延します。



伝統の火祭り「どんど焼き神事」 継承にご協力願います

次世代に継承していく伝統的な神事・伝統文化存続の
為にも、何卒ご理解ご協力の程をお願い申し上げます。

① 正月期間中の古神札納所は分別となります。

納所解体後は、社務所受付に直接お持ち下さい。

※御神札、御守、破魔矢、熊手、縁起物、土鈴の種別です。

② 正月飾りは、小正月(十五
日朝、もしくは十四日夜)
に取り外して下さい。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

※正月飾りは、どんど焼き終
了後は受付できません。

③ 受付できないもの

※鏡餅・鏡餅プラスチック空

箱・授与品以外の不燃物・

人形・仏具・民芸品等

【注意】

神社で授与した古神札・御

守等の授与品は、一年中社務所で

受け付けております。



令和六年二月三日(土)

節分祭追儺式のお知らせ

★終日「福豆」「福餅」をお一人様につき一袋ずつ無料にて

おわがち致します。

数に限りがございます。詳細はホームページやインスタグ

ラムをご覧ください。

●厄祓終日受け付けます。(予約不要)

●福引大会を開催します。(午前九時～午後五時までなくなり次第終了)

●お清めした恵方巻を有志にて販売します。

●節分祭追儺式(神事)は、午後五時四十五分開式にて執行します。





宮司プレス総集編

※193号～204号(要点抜粋)を総集編としてお届けします。
全文をご覧になりたい方は八幡宮ホームページへアクセスしてください。

第一九三号(令和四年十二月十五日)

◇神棚の由来についてご存知ですか。その起源は、伊勢の神宮の御師が大活躍した室町時代といわれています。御師には、全国各地に、それぞれが担当する、いわゆる営業エリアがありました。そして、「おはらい様」と「曆」さらに、お土産を持参して、信者さんのお家にお配りになられたのです。「おはらい様」とは、その最頂にされている信者さんにかわって、一切成就の祓詞を、千度万度、誦誦され、その際の数取りのための麻を函に納めたものです。御師が、全国に配った「お祓い様」が、現在の「神宮大麻」の原型です。

◇神棚にまつるべき神宮大麻は、日本人の大祖先神でもあり、総氏神である天照大御神が、常に国民とともにいらっしゃるといって「みしるし」、「おしるし」であります。さらに、「お祓い様」といって、一切を祓い清める祓の道具、「祓い串」をも表象しているのです。皇陛下にも脈々と受け継がれています。神棚奉斎、神宮大麻の奉斎は、天照大御神の敬神崇祖の思いに立ち返る、「もとほる」ということ、さらに、歴代の天皇陛下の大御心に、「つながる」のです。「もとほり、つながる」営みが、神棚奉斎であります。新しいお札、神宮大麻を奉斎し、身も心も晴々と、清らかな心と体に「もとほり」、来年も、幸せへと「つながる」営みでありますようにお祈り申し上げます。

第一九四号(令和四年十二月二十六日)

◇コロナ禍になって三年、パンデミックは、世界のあらゆる社会の脆弱性をあらわにしたのではないのでしょうか。今、世界経済は、スタグフレーション(景気後退とインフレ)物価上昇)の影におおわれようとしています。日本の果すべき役割は、米中のはざままで、重くのしかかってくるのです。コロナ禍で私共に突き付けられたのは、農耕を始めてから脈々と築いてきた、「協調関係」の危機なんだそうですが、国際協調、外交戦略も重要となってきたうであります。

◇日本人らしい、「従順性」と「寛容性」があったと考えられています。その顕著な特徴は、天皇制と神仏習合です。どんな苦境にあっても、天皇陛下の「バランス オブ パワー」としての御存在を心の柱として、耐え忍び乗り越えてきたのです。今、この日本人らしさを駆使して、三回目の「バックスヤポニカ」を、目指さなければならぬのではないかと考えます。

◇来年は、「癸卯の年」であります。「癸卯」は、「きぼう」と読めるのでありまして、希望を見失わず、いつも、みずみずしい、「従順性」、素直な心で、変わることはない、「小川の水のせせらぎ」のように、「寛容性」、優しい思いやり、利他の心で過ごしたいものです。皆様方にとりまして、善きこと、幸せな思いに包み込まれる、そのような年でありまして心からお祈り申し上げます。

第一九五号(令和五年一月十九日)

◇平成二十六年の甲午年から始めた、干支の書初め、今年で十年目となりました。今年は、三種類、墨書しました。

◇一枚目は、「三幸卯(さんこうぼう)」です。幸せには、「してもらう幸せ」と「できる幸せ」、さらに、「してあげる幸せ」の三つがあります。感謝と謙虚な気持ちで、優しい思いやりのある心で人に接し、「してあげる幸せ」を実践する、「三幸実践」にほかなりません。そして、二枚目は、「葵神去私(きしんきよし)」です。「葵」に「くさかんむり」をつけますと、「葵」となります。この「葵」は、太陽の方向を向くという植物であり、天を仰ぐことから、まさに、大自然の法則にしたがった姿、その大切さを示し、素直な誠の心をあらわしているのです。さらに、三枚目は、「日癸(につき)」です。この癸には、再生の時期に向け、足をそろえて出発する意味も含まれています。

◇新型コロナウイルスは、最初に発見されてから、わずか、三ヶ月で、世界に広まりました。そして、多くの人々を、屋内にとどめてしまう力を見せつけました。地球規模の大惨事です。この大惨事のコロナ禍も四年目となりました。しかしながら、「三幸実践」の日々で、「三幸卯」、幸せに包みこまれながら、「葵神去私」、前向きに人生を楽しみつつ、「日癸」、一歩一歩、着実に進みます。御自愛をお祈り申し上げます。

第一九六号(令和五年二月十日)

◇春にかかる枕詞の一つに、「冬ごもり」という言葉がございます。まさしく、「事八日」を迎えるまでの正月行事、つましく静かに過ごしつつ、その年の豊作を祈る力を蓄える期間でもあるのです。

そして、一年の最初の太祭である、二月十七日の祈年祭を迎えます。二月は、「小の月」、二十八日しかありません。しかし、前述の祈年祭を始め、紀元祭、さらに、天長祭と、日本国民として、おろそかにできない祭典が続くのです。

◇明日は、初代神武天皇様が、橿原の宮にて御即位をされましたのを紀元とする、皇紀二千六百八十三年を迎えます。当宮でも、紀元祭を斎行します。神武天皇様から、今上陛下まで、百二十六代、万世一系の天皇陛下を仰いでいるのであります。幕末の歌人、橘曙覧さんは、「楽しみは 神の御国の民として 神の教を ふかくおもふ」と詠まれています。その「神の教へ」とは、私は、日本人の美質であろうと考えます。一つは、万物万象、至るところに神仏を見いだし、恐れ敬い、感謝の心で生活することです。二つめは、弱い立場の人にも利他、思いやりの心で大切に接することです。さらに、どんな困難にも、正義、正直、倫理、道徳をもって、乗り越えていくという気概を持っていることではないでしょうか。明日は、神の御国の民として、厳肅に紀元祭を御奉仕申し上げる所存です。

第一九七号(令和五年二月二十八日)

◇祈りは、「誓い」でありますから、神様にお誓いをする、お約束を、反故にしないよう、懸命に日々つとめるのです。これを「予祝」といいます。予めお祝いをして、きつとうまくいく、必ず成し遂げる、きつと、神様は助けてくださるといいう、神の御加護を信じるのです。これこそが、「神信心」だと思えます。ケネディ大統領は、「物をなくすと小さなものを失う 信頼をなくすと大きな物を失う 勇気をなくすとすべてを失う」と仰いました。「神信心」という、「日本人の勇気」を持ち続けなければならぬと思えます。まさに、「神信心」の実践の日々が「祭祀の厳修」にほかなりません。

◇当宮、正面参道の鳥居は、昭和十五年、皇紀二千六百年を奉祝して建立されました。その鳥居には、「日光照萬民」、「月色清人心」と刻まれています。苦難が来て、止まない雨はないように、きつと必ず、日はまた昇る、すべての人に光がそがれるという、前向きな気持ちにならなければというのが、「日光照萬民」です。また、謙虚に自分を見つめ直し、新たな一歩を踏み出させねばという気持ちにしてくれるのが、「月色清人心」ではないかと思えます。

◇大切なのは、人類共通の脅威であるコロナ禍の三年間を、社会的秩序を保つことができた、「日本人の勇気」である、「日光照萬民」、「月色清人心」の「神信心」を失わないことではないでしょうか。

第一九八号(令和五年三月十五日)

◇当宮では、三月五日に、「上巳の祓い」の故事に倣い、冬禊練成会が、開催されました。

◇禊は、身を削ぐ思いで、海に入ったたり、滝に打たれたりして、罪穢れを清める神事です。罪とは、神様に、自分の心を「包み隠すこと」だと思えます。穢れとは、清浄なる心が、「枯れる」、「気枯れ」ではないかと思えます。常に、気持ちを枯らさないように、心を清浄に保つことが大切です。とかく、せちがらい世相、コロナ禍四年目の現在、「包み隠さず」、「気枯れ」なく生活することは、容易なことではありません。自己中心的な心が肥大して、調和をみだし、協力協調が難しくなります。神社神道は、「つながりの宗教」であります。神様、大自然、そして、人々につながって、共に生きてきたのであります。作家の司馬遼太郎さんは、昔も今もまた未来においても変わらないことがあつた。そこに空気と水、それに土などという自然があつて、人間は自然によって生かされてきた。人間は、助け合つて生きているのである。」と仰っています。司馬さんの仰っている、「助け合つて生きている」という社会を実現するためには、利他的な心、他人を思いやる心と行動が必要で、まさしくそれが「包み隠さず」、「気枯れ」なく生活することではないでしょうか。包み隠さず、気持ちを枯らさず、「共尊共生共栄」の日々でありたいものです。

第一九九号(令和五年四月四日)

◇「風姿花伝」には、「秘すれば花 秘せずは花なるべからず」、さらに、「去年盛りあれば今年は、花なかるべきことを知るべし」とも書かれ、論されています。美しいものには、言葉は必要ない、花そのものの存在がすべてであり、まさにそれは、「秘めた多言」だとおっしゃっています。さらに、毎年、同じように花が美しく咲くわけではなく、何事も不変ではないということを理解して、稽古につとめる大切さ、「初心忘るべからず」につながる言葉を残されました。

◇平地に桜が咲き、花見をするようになったのは、江戸時代、天下泰平の世になつてからです。それまでは、農作業の手を休めて、山の中腹に咲く「山桜花」を観て、その咲き具合や散りゆく様子で、その年の豊作を占つた予祝の神事でありました。文明や情報も乏しい時代、予測も出来ない時代、満開の桜の花を観て、明日からしつかり農作業を頑張ろう、きつとうまくいく、豊年満作という大目標を確認しあつたのです。私どもも、御先祖様に見習つて、「こころ」を悪く使うことなく、美しく尊い大和心に、卯の花のような白く小さな花を咲かせることができるようつとめたいものです。そして、その過程には、大難もあり少難もありましょうが、「さて生きよ」、「今年花なかるべきことを知るべし」、謙虚に、螺旋階段を登りつめていく、スパイラルな成長を続けたいものです。

第二〇〇号(令和五年四月三十日)

◇さて、昨日は、昭和天皇様のお誕生日でありまして、昭和祭を御奉仕申し上げました。日本の五回目奇跡(ちなみに、四回の奇跡とは、元寇、明治維新、日清戦争勝利、日露戦争勝利です)といわれる戦後の大復興、その原動力となり、さらに、日本人の心の柱、支え、礎、パワース、オプ パワーの御存在こそが、昭和天皇様ではなかつたかと思えます。

◇経営の神様と言われた松下幸之助さんは、日本人の美質ともいふべき、「日本人の伝統的精神」の特性を三つあげられました。一つは、「衆知」、みんなで協力して知恵をだして問題解決するということです。「和を貴ぶ」、助け合い支え合つて生活をし、運命共同体としての地域社会を構築してきたのです。さらに、「主座を保つ」ことだと仰いました。「主座」、それは、常に「国やすけれ 民やすかれ」と私共国民にお心をお寄せになる、天皇陛下、御皇室の御存在です。昭和天皇様の御製、「ふりつもる 深雪にたえて 色かえぬ 松ぞ雄々しき 人もかくあれ」とあります。雪の重さ、冷たさ、厳しさにも耐えて、色をかえない、常緑樹の松のような強さを持ちなさいとの大御心であります。これからも、課題克服の毎日ではありますが、知恵をだし、助け合い支え合い、天皇陛下御皇室の御存在を心の柱に、「主座」を保ちつつ、松のように強くたくましく過ごされることをお祈り申し上げます。

第二〇一号(令和五年五月二十六日)

◇西欧には、「ノーブレス・オブリージュ」という言葉があります。これは、高い地位に伴う道徳的、精神的義務を表す言葉です。しかしながら、日本では、高い地位でなくても、国民すべての人が、責任と義務を果たすことを当たり前のこととしてきました。まさに、コロナ禍の三年半、社会的秩序が保てた要因にあげられる、「日本人のオブリージュ」ではないでしょうか。フランスの詩人ポール・クロードルさんは、前述の「日本人のオブリージュ」を次のように述べておられます。「日本は、貧しい、しかし高貴だ。地上で決して滅んでほしくない民族をただ一つ挙げるとすれば、それは日本だ」と。今、日本人が見失おうとしているものが、三つあるそうです。一つは、「廉恥心」、お天道様が見ている、恥ずかしいことをしてはいけないという心です。それから、「道徳」、人として守らなければならないルールです。さらに、「誇り」です。この三つは、日本人としての理想的な生活の心がけてはないでしょうか。

◇新型コロナウイルス感染症も、五類に引き下げられ、「普通の病気」になりました。あります。生かされている尊い命だからこそ、作家の寺田寅彦さんが、仰ったように、「怖がりすぎず」、「怖がらなさすぎず」、これからも、慎重深く、油断なく生活することが大切です。「日本人のオブリージュ」を誇りとして。

第二〇二号(令和五年六月十一日)

◇異常気象の多発に関係するといわれるエルニーニョ現象が、熱帯太平洋でほぼ四年ぶりに発生したそうです。この異常気象は、豪雨などの極端気象が増えたり、エネルギー需給が逼迫したり、はたまた、世界経済の成長率を押し下げる要因となったりして、懸念されることばかりです。進みすぎた文化文明が、大自然の正しい循環を邪魔して、阻害する事によってもたらされた宿命的な危機や複合的な危機に直面しているといえるのではないのでしょうか。

◇文化には、二種類ありまして「頭の文化」と「心の文化」です。頭の文化は目に見えて、便利さを体感し、その利益を享受しやすいため、この頭の文化ばかりが重視されてきました。そうであればこそ、心の文化こそ、大事に見直さなければならぬのではないのでしょうか。大自然の恵に感謝し、神様や祖先を尊び、生きていく事におかげさまという気持ちをお大切に、自然と共に、神様祖先と共に、そして、家族や地域の人々と共に生きていくのが神社神道であります。

◇渠成りて水到る、これは中国の故事です。大きな溝を作ったけれどもなかなか水が流れてこない、ある日大雨が降ったら、乾いた田を美田にかえるような、滔々とした清らかな水の流りが出来たという意味です。日本人の心の文化を忘れずに、日々の暮らしをいとなく、清らかな水の流れをつくりたいものです。

第二〇三号(令和五年七月二十九日)

◇書経に、「地平らぎ天成り」という、名高い言葉があります。なぜ、名高いかという、「平成」という元号の典故だからです。まず、この地上が平和であって、初めて天が成り立つと仰っています。地上が平和であって、初めて天としての健全な営みがあると言っているのです。

◇「地平らぎ天成り」とは、私は、「自然崇拜」、「自然信仰」の実践であるところの「祭り」だと思えます。「祭り」は、神様と私共が、真に釣り合っている、「真釣り」だと考えるのです。日々の暮らしの中で、神様に祈り、未来を誓い、その過程には、トライアンドエラーの繰り返しではありますが、与えられた結果に謙虚に向き合い感謝を捧げ、身も心も清らかに神様の御加護を願うのです。そして、さらに、前向きな気持ちになり、希望を見失わず生活することを誓う、神様にお約束する、まさしく敬神生活であり、「真釣り」の生活なのです。まさに、日本人らしい心ではないでしょうか。

◇「幸せ」は、三つありますが、御存知ですか。一つ目は、「してもらう幸せ、感謝、過去」です。そして、二つ目は、「できる幸せ、謙虚、現在」、さらに、「してあげる幸せ、希望、未来」です。まさに、「地平らぎ天成り」、「自然崇拜」、「自然信仰」の実践であるところの「祭り」、「真釣り」、「三幸実践」の敬神生活を神様にお誓いする神事といえるのではないのでしょうか。

第二〇四号(令和五年八月三十一日)

◇書経の「地平らぎ天成り」について、実は、「六府三事允に治まる」という章句が続くのです。地が平和になるための政治の在り方をいっています。「府」というのは倉庫のことで、六府とは六つの倉庫のことです。「政府」や「幕府」と「府」が入っているのも、国民に安心を与えることが、政治の最大の責務としたからでしょうか。

◇しかし、もっと大切なことは、政治に、「民を思いやる心」がなくてはならない、それこそが、「三事」なのです。三事とは、「正徳・利用・厚生」であります。江戸時代儒学者の山田方谷は、藩内の貧しい暮らしの人々、苦しい立場の人々をつぶさに見てまわり、「至誠則怛」とおっしゃいました。誠の心とは、弱く貧しく苦しい立場の人々に、心をよせて、その人々のことを忘れずに諸事を尽くす事なのだと言われ、藩の財政の立て直しに尽力されたのでした。

◇高温多湿の日本の気候に則した高床式の貯蔵倉庫にお鎮まりになっていらっしゃるのが、伊勢の神宮様、天照大御神様であります。日本の六府の根源、国民の最大の安寧こそが、神宮様ではないでしょうか。日本のストック社会、貯える、「六府」の原点ともいえるでしょう。永遠に続く泰平の世であるためにも、御英霊に感謝をし、「至誠則怛」を心掛け、日本国民の最大の安寧である、神宮様を大切に暮らしたいものです。

令和五年正月
新年御供米料
奉献会社御芳名【*順不同敬称略】

- (株)中冷
- チヨダウーテ(株)下関工場
- 農水フーツ(株)
- (株)副田工務所
- (有)上釜電機商会
- 香洋工業(株)
- (有)フジタ石油
- (株)彦島造園
- (有)枝村ドラム工業所
- 和田電機(株)
- (株)サントー
- (株)コガサン
- 三池屋
- (株)百合野
- (有)平田工業所
- (有)植田商会
- (株)共立機械製作所
- (株)室田組
- 関門三協工業(株)
- 高保工業(株)
- 山口県漁業協同組合下関南風泊支店
- テラーしばた
- (有)三宅商店
- (株)原工務店
- (有)ライフクリーニング
- (有)南国シティタクシー
- (有)ライス&ミルク上村
- 廣田弘光

令和五年二月三日
節分祭
御協賛会社御芳名【*順不同敬称略】

- 下関三井化学(株)
- 彦島製錬(株)
- キャボットジャパン(株)下関工場
- オルネクスジャパン(株)下関工場
- 池田興業(株)下関支店
- 三菱重工(株)下関造船所
- サンセイ(株)下関工場
- (有)前田造船所
- 日新リフラテック(株)
- 下関唐戸魚市場(株)
- 協立運輸商事(株)
- 西和建工(株)
- ALG合同会社
- ジャパンマリン(株)
- 青木鉄工(株)
- (株)田原工務店
- (株)大田造船
- (株)ユキテクノ
- (株)大庭工務店
- タナカ機工(有)
- (株)山口銀行彦島支店
- (株)西京銀行彦島支店
- 西中国信用金庫福浦支店
- (株)共立建設
- ファミリマート迫町店
- (株)ナカハラプリンテックス



お多福門をくぐる多くの参拝者で境内が賑わいになりました。「福豆のおわかし」千袋も多くの皆様に喜んでいただきました。

令和五年七月三十日
夏越祭
御協賛会社御芳名【*順不同敬称略】

- 下関三井化学(株)
- 彦島製錬(株)
- キャボットジャパン(株)下関工場
- 西中国信用金庫
- 三菱重工(株)下関造船所
- サンセイ(株)下関工場
- 日本歯科薬品(株)
- 日新リフラテック(株)
- 下関唐戸魚市場(株)
- 山口県漁業協同組合彦島支店
- 山口県漁業協同組合下関南風泊支店
- (株)共立建設
- 友貴水産(株)
- (株)タカツキ

奉賛会の皆様により茅ノ輪の奉製や御神輿を奉じて彦島氏子地域の御神幸祭を厳修致しました。
 皆様方のおかげと工夫をもちまして滞りなく執り収める事が出来、感謝申し上げます。



第2回目の茅の輪



奉賛会による茅の輪奉製作業



御神幸御旅所祭

令和五年十月二十一日〜二十二日
秋季例大祭
御協賛会社御芳名【*順不同敬称略】

- 【物産奉納品】
- 農水フーツ(株)豚まん肉まん餃子冷凍食品各種
- (株)中冷(アセロドリンク)
- (有)もずくセンター(もずくスープ)
- (有)マルイチ彦島醸造工場(彦島みそ)
- 桃蔵水産(株)塩わかめ
- (株)巖流本舗(巖流焼きおそいぞ武蔵)
- 【福引大会協賛】
- 彦島製錬(株)安全協力会
- (株)下関酒造
- 新興産業(株)

【臨時駐車場提供】

- 下関三井化学(株)
- 池田興業(株)下関支店

令和五年犬々神祭
御奉納会社御芳名【*順不同敬称略】

- 一月 (株)中野工業
- 十月 (株)岡本鉄工

奉納
 神池蓮
 植田(彦島西山町)
 神輿鳳凰修繕
 田中(彦島桜ヶ丘町)
 電動千歯抜き
 田中(彦島桜ヶ丘町)
 注連縄
 野村(蒲生野)
 新米 田中(熊本県)
 新米・懸税 山本(内日下)



境内草刈奉仕
 彦島建設(株)



前列左から止役 和田治仁氏、先舞役 可知重成氏、後舞役 和田剛氏、後列猿田彦大神 福田寛氏

昨秋斎行されました秋季例大祭の様子です。四年ぶりとなる「彦島ふく鍋」「餅まき」等、神賑行事も執行でき境内が賑やかになりました。

無形民俗文化財
『サイ上り神事』
御創祀八六四年例祭斎行
令和五年十月二十二日(日)



氏子小学生が獅子人役として榊の葉を口にし御神殿3殿に1升餅重を献饗する



4年ぶりに振舞われた彦島味噌を使用したふく鍋



4年ぶりに復活した餅まき



ピンクリボン月間にあわせ下関市の「カラーデコレーション活動」に沿いピンクを基調した花手水



新池坊社中によるいけばな展



「サアあがった」の掛け声とともに槍を突き上げる後舞役



御神体である八幡尊像が彫られた名鏡を海底から引き揚げる様子を再現する先舞役

「まほろば学級」寄稿感想文

令和五年八月六日(日)

情操教育の一環として、例年八月第一日曜日の夏季休暇中に下関市教育委員会の後援のもと開催致しております。お陰様をもちまして第十六回目を迎える事が叶いました。

令和六年は八月四日(日)に開校予定です。一日という短い時間ではありますが、氏神さまの境内、鎮守の杜で楽しい時間を過ごしてみませんか。ご興味あります方は、お気軽に社務所までお問い合わせ下さい。



絵本の読み聞かせ



日没後のあんどん行列



そうめん流し



雅楽演奏



参加児童によって作られた花手水

『まほろば学級に参加して』
西山小学校 中村 優希
まほろば学級に参加させてもらって、今回で二回目になります。私に心が残っていることは三つあります。

一つ目は、夕ご飯です。カレーライスとおかずがとても美味しかったです。準備して下さった方々に感謝の気持ちで一杯です。

そして、久しぶりに友達と話をしながら食事ができたので楽しかったです。

二つ目は、花手水です。去年、花手水に花を浮かべさせていただきました。今年もできましたが、花が水や風の影響で流れて違う場所についてしまうので難しいと思

いました。花手水のデザインを考えて浮かべている方はすごいと思いました。三つ目は、手持ち花火も一人でするより、友達と一緒にするほうが、もっときれいな見えました。

宮司さんや関係者の方、地域の方には本当に世話になりました。ありがとうございます。

来年もまた、まほろば学級に参加させていただきたいです。

『初めてのまほろば学級』
西山小学校 益成 恵舞
私は、まほろば学級に初めて参加させていただきました。どんな事をするのか、とても楽しみでした。お参りには、来たことがありますが、知らない事がたくさんありました。

いつもきれいだなと思っていた花手水も、自分たちで浮かべ飾ることができました。昼食のそうめん流しも、初めてだったのでとても楽しかったです。竹を使った手作りの台や器も作って下さっていてすごいなと思いました。

あんどん作りの時間が時間もあつた。かき氷は二杯も食べました。三杯、四杯と食べている人もいて、「おなかこわさないかな」と思いました。美味しかったです。ゲーム

は魚鳥木が一番おもしろかったです。夕食も私が大好きなカレーでとてもうれしかったです。そして、みんなで食べるご飯は、やっぱりおいしいなと思いました。生演奏

の雅楽はとても迫力があり、すてきな音色でした。花火は、手持ち花火や線香花火が楽しかったです。そして、打ち上げ花火を打ち上げさせてもらいました。打ち上げたことがなかったので、きんちょう

しましたが、とてもきれいで、いい思い出になりました。

まほろば学級では、初めての事、楽しかった事がたくさんありました。なので、来年も参加したいなと思いました。本当に楽しい時間をありがとうございました。

「大干支絵馬を制作して」 「辰年にむけて」

今回、彦島中学校美術部で、「大干支絵馬」の制作を二年連続で行うことになりました。去年、先輩たちが彦島八幡宮の大きな絵馬を描いているのを見ていたので、今回絵馬を描かせていただくことをとても楽しみにしていました。私たちは、絵馬を描くことが初めてだったので、どんな絵馬をどうやって描くのか、なかなか想像ができませんでした。しかし、みんなが考えてきたアイデアをもとに話し合い、一人ひとりの良さや個性があふれた素晴らしいデザインにすることができました。

彦島は、海がすてきだと思ったので、海の波の模様を描き、迫力がありつつか



わいい「辰」を力強く描きました。また、お正月の神社に飾るものなので、お正月らしい梅の花や松を描きました。彦島八幡宮に参拝されたみなさん

が、明るく元気な気持ちになるように、明るい緑や青を取り入れて華やかな印象を与えられるように工夫しました。

今回、初めて大干支絵馬を制作して感じたことは、全員絵馬を描くことが初めてだったので、バランスを取るのが難しく、また、色塗りは絶対に失敗できなかったものでとても緊張しました。しかし、二年生のみんなで一つの作品を協力して作り上げたことは最初で最後の大切な思い出となり、本当に楽しく貴重な経験でした。

彦島八幡宮に参拝された方が、私たちの描いた絵馬を見て、元気になってくださったたり、少しでも感動してくださったりしたら、とても嬉しいです。

下関市立彦島中学校 美術部二年

- 東梨子 蒲池未歩 西坂衣央
- 高橋萌音 藤永妃菜 又吉美緒
- 茶屋原玲奈 森岡潤

奉納 大干支絵馬

下関市立玄洋中学校 美術部

昨年引き続き、「大干支絵馬」奉製の機会をいただきましてありがとうございます。私たち玄洋中学校美術部は、二年生一名、一年生七名の合計八名で活動しています。

今年の干支である甲辰は、「甲」は物事の始まりを、「辰」は成長の意味が込められているそうです。なので、力強く成長しているような迫力のある絵馬にするため、何度も構成を練り直し、納得のいくまでやり直しをしました。辰は干支で唯一の空想上の生物なので、かつこよくて迫力を出せるように、辰を大きく描いたり、顔を中心に描いてみたりと



工夫しています。背景との色合いにもこだわり、何色か作ったうえで納得のいい色を使用しました。また、辰の色塗りには、重ね塗りをして深みを出し、鱗の色も最大限表現できるように頑張りました。力強い辰の表現が、少しでも皆さんに伝わっていただければ嬉しく思います。絵馬に書き入れた文字にも工夫があり、「甲辰」が目立つように別のフォントで書きました。また、今年は令和六年なので、六に絡めて絵馬の中に瓢箪を六つ描き入れており、六瓢から無病息災の意味にもなっています。参拝される皆さんが来年も無病息災でいられるように祈りを込めて描かせていただきました。

この度、彦島八幡宮の絵馬を描かせていただくという貴重な経験に関われたことに、とても感謝しています。これからもここまで大きな作品に携われることは、とても少ないと思います。「大干支絵馬」というとても重要な作品に携われたことはとても大切で楽しい思い出となりました。このような素晴らしいご縁をいただき、嬉しい限りです。彦島八幡宮に参拝してくださった方が、少しでも私たちの絵馬を見て元気になっただけであれば幸いです。

下関市立玄洋中学校 美術部

- 二年 伊井遥香
- 一年 柿沼千尋 高谷ひなた
- 長岡美結 西村朱夏 藤岡柚奈
- 松井竜之介 宮木香乃羽

下関氏子青年会並びに下関青年神職会合同冬禊錬成会

令和五年三月五日

去る三月五日、当宮引き受けにて、市内の青年神職や氏子青年が中心となり、恒例の冬禊錬成会が開催されました。禊は伊邪那岐大神様の神業に繋がり、神社神道の根幹的な修行の実践です。錬成会に先立ち、参加者一同昇殿参拝



され、総勢二十四名にて禊に臨まれました。禊場は響灘や六連島の景色が映えるひこつとらんどマリンビーチ(西山海水浴場)でした。



氏子青年会「維蘇志会」結成三十周年奉告祭

令和五年三月十八日

「維蘇志会」は平成五年三月十五日に結成され、令和五年に三十周年の佳節を迎えるにあたり、奉告祭並びに式典が厳修されました。石崎研二会長が式辞を述べ、亀山八幡宮氏子青年会「亀笑会」会長の辻野八郎様にご祝辞を賜り、旧会員も参列され旧交を温めた次第です。

氏子を中心に彦島在住又は当宮と御神縁ある成人で組織され、現在三十四名の在籍です。節分祭を主催し、四季折々の祭礼行事に奉仕する神社奉護の一翼を担う団体です。近年は若い世代の会員も増え、精力的に活動しています。



舟島神社例祭

佐々木小次郎大人命四百一十一年慰霊祭厳修

令和五年三月十五日

舟島神社再建後初となる現地、舟島(巖流島)へ渡つての祭禮並びに慰霊祭を斎行致しました。毎年小次郎 武蔵の決闘日に近い土曜日に彦島自治連合会が祭主(主催)となり、当宮柴田宮司が斎主として神事をお仕え申し上げます。慰霊祭では佐々木小次郎慰霊碑の大前にてNPO武道和良久 前田比良聖先生をはじめ、九州本部道場や仙台道場の稽古人の皆様による演武

「佐々木小次郎剣の型」などが奉納されました。又、所縁深き株式会社巖流本舗様により銘菓「巖流焼き」と「おそいぞ武蔵」が奉献され、神事終了後に参列者に撤下されました。

午後からは、彦島瑞鳳殿にて新型コロナウイルスの影響で延期されてきました再建完工記念祝賀会が開催され、盛会となりました。下関市長前田晋太郎様をはじめ、再建工事にご尽力いただきました三菱重工下関造船所様、東亜建設工業(株)様、(株)エストラスト様、大田造船(株)様をはじめ各界よりご来臨の栄を賜りました。

再建工事に格別なる御協賛御芳心を賜りました皆様方に改めまして、茲に厚く御礼申し上げます。



兼務社 六連島八幡宮例祭厳修

令和五年十月四日～五日

宵宮祭では、先ず到着後、当元家に注連縄を張り、神棚の大前にて神職二名が祝詞を奏し、塩水と笹葉(もしくは南天葉)にてお清めをしてその後二手に分かれます。同様に氏子約三十五世帯の各戸へ出向き祭祀を執り行います。ただし、服忌(日がり)の家は略儀の慣例です。



日没後、宵宮祭を斎行し、彦島地区唯一の「湯立神事」を執り行います。神職が大祓詞を二巻奏上した後、忌火にて沸かした忌釜の湯に、葉に立てた人形三体を浮かべ吉凶を

占い、その湯にて参列者全員をお清めし、無病息災五穀豊穰を祈る伝統神事です。翌日、本殿祭を斎行し、年に二度の御神幸祭で波止場の御旅所まで練り歩きます。



兼務社 田の首八幡宮例祭厳修

令和五年十月十四日～十五日

日曜日に本殿祭並びに御神幸祭を斎行し、関門海峡海岸沿いの御旅所はじめ田の首町内を隈なく巡行致します。

雄大な関門海峡と対岸の北九州市門司区を眼下に風光明媚な聖地に鎮座する田の首八幡宮は、彦島海士郷町に鎮座する恵美須神社同様、御本殿は荘厳な瓦葺です。殊更神龍の飾り



瓦は見事でありませす。辰年に肖り、是非ご拝観下さい。総代や田の首自治会の皆様の献身的な奉護と工夫した組織体系により、年間の祭禮行事が円滑に運営されています。

八幡様の知恵袋

服忌について

家族や親族が亡くなった時に喪に服す行為を「服忌」といいます。忌中の期間は、神社や神棚への参拝、お祭りへの参加奉仕、お祝い事などを一定の期間遠慮し、慎む事が一般的とされます。

地域の慣習(鳥居をくぐらないなど)や亡くなった方との血縁(近い親戚か遠い親戚)、同居の有無により、違いがありますが、一定の期間、身を慎みます。忌中(喪がかかる・日がり)についてのお問い合わせが多数寄せられますので、左図(一)内は親等)をご参考にして下さい。

「神社本庁神葬祭の葉」より



八幡さんの思い出写真

今号は昭和四十年代の当八幡宮の楼門全景です。現在は全て屋根は銅板葺きですが、当時は瓦葺でした。



第九回彦島八幡宮杯争奪ソフトボール大会

令和五年十一月十二日



優勝 チームZERO
 準優勝 彦島クラブ
 三位 関球連
 MVP 山口亮太選手

令和6年(甲辰)厄年・年祝表

(年祝)

上寿祝	大正14年生(100歳)	数え年100歳のお祝い。
白寿祝	大正15昭和元年生(99歳)	百から上の一を取ると白になり、数で云えば99である。
卒寿祝	昭和10年生(90歳)	卒は略字で卒と書き九十と読む。
米寿祝	昭和12年生(88歳)	米は字をわけると八十八となる。
傘寿祝	昭和20年生(80歳)	傘は略字で傘と書き八十と読む。
喜寿祝	昭和23年生(77歳)	喜は草書で喜と書き七十七と読む。
古稀祝	昭和30年生(70歳)	「人生七十古来稀なり」の漢詩にもとづく。
還暦祝	昭和39年生(61歳)	干支が丁度一巡し、誕生の年と同じになるので本卦返りともいう。

※節分祭(2月3日)までに厄祓をお受けしましょう。

(厄年)

性別	年齢	前厄	本厄	後厄
男	25歳	平成13年生(24歳)へび	平成12年生(25歳)たつ	平成11年生(26歳)うさぎ
	42歳	昭和59年生(41歳)ねずみ	昭和58年生(42歳)いのし	昭和57年生(43歳)いぬ
	61歳	昭和40年生(60歳)へび	昭和39年生(61歳)たつ	昭和38年生(62歳)うさぎ
女	19歳	平成19年生(18歳)いのし	平成18年生(19歳)いぬ	平成17年生(20歳)とり
	33歳	平成5年生(32歳)とり	平成4年生(33歳)さる	平成3年生(34歳)ひつじ
	37歳	昭和64平成元年生(36歳)へび	昭和63年生(37歳)たつ	昭和62年生(38歳)うさぎ

八方塞がり

皆様一人一人の生年月日により九つの星“九星”に区分され星回りが存在します。中央を基点に、北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の方角をめぐり、九年に一度中央に入ります。これが八つの星(方位)に囲まれた状態である**八方塞がり**です。不安定な年とされ、より注意をしなければならぬ年です。

八方除けの祈願や方位除けの御守をお受けになられ、御神慮を恐れ、慎む事をお勧め申し上げます。

本年は**三碧木星**の方が該当致します。(※以下に表記)

昭和9年、昭和18年、昭和27年、昭和36年、昭和45年、昭和54年、昭和63年、平成9年、平成18年、平成27年

(三月荒神様の方位) 三月荒神様(三ヶ月ごとに方位を変えられる神様)の方位への移転新築増改築開店等々留意しなければなりません。

北	令和5年11月13日～令和6年2月9日	東	2月10日(旧元日)～5月7日
南	5月8日～8月3日	西	8月4日～10月31日

(七五三祝)

髪置祝	令和4年生の男女(3歳)	髪を伸ばし整え始めること。
袴着祝	令和2年生の男子(5歳)	男の子が初めて袴をはき始める年齢。
帯解祝	平成30年生の女子(7歳)	女の子が今までの紐付着物から帯を締める大人の着物に替える年齢。

(天赦日一覧)

1月1日(一粒万倍日)、3月15日(一粒万倍日)、5月30日、7月29日(一粒万倍日)、8月12日、10月11日、12月26日(一粒万倍日)

祈願祭(お祓い)は数え年でお受けしましょう。

「数え年」は、生まれた時点を1歳とし、新年を迎える度に1歳加えて行きます。これは、正月に各家を訪れる年神様から1つ年を頂くというありがたい意味があります。満年齢に誕生日前であれば2歳、誕生日を迎えた後は1歳を加える解釈となります。

安産祈願祭・腹帯清祓のご案内 (令和6年の戌の日)

彦島八幡宮は別名『**子安八幡**』とも称され、安産の神様としても崇められ、県内外よりご参拝いただきます。ご持参頂いた腹帯(マタニティガードル)に当宮の「**安産守護之印**」を押印させていただきます。

1月11日(木)	4月4日(木)	7月9日(火)	10月1日(火)
23日(火)	16日(火)	21日(日)	13日(日)
2月4日(日)	28日(日)	8月2日(金)	25日(金)
16日(金)	5月10日(金)	14日(水)	11月6日(水)
28日(水)	22日(水)	26日(月)	18日(月)
3月11日(月)	6月3日(月)	9月7日(土)	30日(土)
23日(土)	15日(土)	19日(木)	12月12日(木)
	27日(木)		24日(火)

★お子様の命名書、宮司が浄書致します。お気軽に社務所迄お申し出ください。授与された命名の掛け軸をご持参下さい。お持ちでない方も、半紙や色紙等に謹筆致します。

編集者 山柴 徳夫

発行所 彦島八幡宮社務所
〒950-0000 彦島市彦島五丁目十二番九号
TEL 025-266-1101
FAX 025-266-1102
http://www.hikoshimahachimangu.net

公式Instagram



公式ホームページ



印刷・株ナカハラプリンテックス